

自 己 評 価 表

教育方針	自由闊達で進取の気風を持ち、広く高い知性を求めて深く学び、豊かな未来を創造する個性あふれる生徒を育成する。	重点努力目標	起こせ！ イノベーション 地域と共に伸びる南高創り ①小・中学校との連携を強化し、地域の教育環境の向上を図る。 ②南高の魅力を発信し、開かれた学校づくりを推進する。 ③積極的に地域交流を行い、地域資源の有効活用を図る。 学びの質を高める南高創り ①ICTの活用を推進し、自ら考え自ら学ぶ態度と学習習慣を確立する。 ②希望進路実現のため、感動ある授業と個別指導の充実を図る。 ③基本的な生活習慣を確立し、学習意欲の向上を図る。
------	---	--------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	1 地域に開かれた学校運営	学校・地域の有為な人材を活用したカリキュラムマネジメントの推進	A	本校の卒業生を招いての特別講演会や総合的な探究の時間で、本校卒業生を講師として活用し、有意義な活動が実施できた。	総合的な探究の時間を充実させるために、広く地域の人材を活用し、地域の教育力を生かした特色ある教育を実践する。
	2 学校の魅力を情報発信	学校ホームページを毎日更新、「南高通信」を毎月発行	B	本校の魅力発信の一つとしてホームページの南光ブログの充実を図った。南光ブログはその日の学校行事をタイムリーにアップした。一日の平均閲覧数は240件程度となっている。	本校の多方面の魅力発信のために全教職員が取組む意識を持ち、南光ブログを毎日更新する。南高通信も掲載内容が偏らないよう、本校への進学に関する情報や取組を掲載する。
	3 皆勤率の向上	全校の1か年皆勤者数180人以上 A:180人以上、B:179～170人、C:169～160人、D:159～150人、E:150人未満	E	全体の1か年皆勤者数は、2学期末現在で104人(40.9%)であった。体調不良で欠席する生徒多くいた。	特定の生徒が欠席する傾向にあり、家庭と連携した指導を行い体調管理及び規則正しい生活習慣の確立の呼び掛け、皆勤率の向上を図る。評価基準については見直しをする。
	4 公開授業の充実	公開授業見学者 延べ100人以上 A:100人以上、B:99～90人、C:89～80人、D:79～70人、E:70人未満	A	年2回の公開授業(6月、11月)の参観者は計34名、PTA総会出席者55名であった。しかし、今年度は体育祭、文化祭などの学校行事において学習活動の様子を見ていただく機会を設け、多くの保護者に生徒、学校の様子を見ていただいた。	PTA総会などに合わせて公開授業日を設定したり、学校ホームページやまちこみメールを活用して案内するなどの工夫が必要である。また、本校の教育内容を知ってもらうために中学校への公開授業の案内も積極的に行う。
学習指導	5 家庭学習の充実	家庭学習(自主学習)1日2時間以上 A:2時間以上、B:1時間59分～1時間30分、C:1時間29分～1時間、D:59分～30分、E:30分未満	A	10月調査における学習時間の全校平均では180分(1年124分、2年212分、3年195分)と目標を達成しているが、クラスによっては平均が70分の学級もあるので更に充実に図りたい。	今後も家庭学習時間の少ない生徒への働き掛けを行い、基礎学力の定着を図る。
	6 基礎学力の定着	適切な課題提示と家庭学習状況の確認	B	適切な課題が提示され、提出期限を守って提出された課題から家庭学習状況の確認が行われた。	課題は各教科で計画的に実施し、生徒の負担になりすぎないように配慮していく。
	7 分かる授業	ICT機器活用の授業推進と授業研究会の実施	A	ICT利用に対する評価は最も高い4が全体の6割以上を占めていた。研修計画の授業研究会は他教科の先生方も参加し、実施することができた。	Microsoft365や「えひめICT学習支援システム(EILS)」の教員向け研修会を実施し、スキルアップを目指す。また、一人一台端末の効果的な活用を推進する。
	8 ICTの活用	教科・ホームルームでのMicrosoft365及び一人一台端末の利用促進	B	教職員の学校評価におけるMicrosoft365の活用度は75%であった。アンケート実施には活用されたが、教員によって利用差がある。	今後もMicrosoft365を利用し生徒一人一台端末の利用方法の研修会を実施するとともに、教科会で利用方法について研究し、教科に応じた活用を促進する。
生徒指導	9 基本的な生活習慣の確立	校則などルールを守っている生徒の割合90%以上 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%、E:60%未満	B	身だしなみ指導の再指導率が12%と低く、外部のルールが守れている生徒の割合は88%であった。校則については、今後も慎重に審議し、改善が必要な場合は、早急に対応したい。	いろいろな場面でルールを生徒自ら順守する姿勢を育成する。校則等については毎年生徒の意見も取り入れた見直しを行い、生徒自らが前向きにルールを守る姿勢を身に付けさせる。
	10 安心・安全な学校生活の確立	学校生活を安心して送れている生徒の割合90%以上 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%、E:60%未満	A	学校生活が楽しく充実している生徒の割合は93%が高かった。今後も充実した学校生活を送れるように、安心・安全な学校生活の確立に努めたい。	パワーアップ週間や学年間の共通理解を図り、生徒の状況や取り巻く人間関係などについて担任だけでなく、学年・各課で見守り、生徒に対する目配りを行う。
	11 部活動の活性化	自らの目標に向けて努力をしている生徒の割合90%以上 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%、E:60%未満	A	90%の生徒が部活動に積極的に参加しており、多くの部で充実した運営ができていると考えられる。	部活動の精選等に取り組み、生徒が充実した部活動に取り組める環境を整え、生徒が充実感を味わえる部活動を推進する。
	12 学校行事の充実	学校行事が充実していると感じる生徒の割合90%以上 A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%、E:60%未満	A	93%の生徒が学校行事に積極的に参加しており、体育祭、文化祭も今年は制限を設けずに開催し、盛況のうちに終えることができた。	多くの生徒が前向きに学校行事に参加できるように実施方法や内容を生徒共に検討し、生徒が充実感や達成感を味わえるものとする。
進路指導	13 進学指導及び実績	幅広い受験方式に対応した面接・小論文指導の充実を図り、進学決定率100% A:100%、B:99～90%、C:89～80%、D:79～70%、E:70%未満	B	叶夢センターのスタッフの方々の協力も得ながら、面接、小論文指導を行ってきたが、第一志望合格を逃す生徒もいた。3月に入っても進学指導を要する生徒が出てくるかもしれないが、100%になるまで寄り添っていきたい。	更に、叶夢センターのスタッフとの連携を密にして有機的に効果が上がるように改善していきたい。特に、面接、小論文は、総合型選抜、学校推薦型選抜入試において大変重要な能力になるのでしっかり対応できる体制をさらに作りたい。
	14 就職指導及び実績	就職ガイダンス・面接指導の充実を図り、就職決定率100% A:100%、B:99～90%、C:89～80%、D:79～70%、E:70%未満	A	色々あったが、最終的に希望者全員内定を頂いた。公務員試験にも2人合格するなど頑張る姿が見えた。	引継ぎをしっかり行い、情報共有を密にして来年度も100%合格を目指したい。
	15 進路実現のための指導	担任による進路面接の実施、年5回以上(三者面談を含む) A:5.0回以上、B:4.9～4.0回、C:3.9～3.0回、D:2.9～2.0回、E:2.0回未満	A	学期ごとに面接を行い生徒の進路希望等の把握に努めている。更にその都度、放課後等において職員室で面談している様子が伺える。	来年度も本年度の取り組みを踏襲しつつ、改善できるところは、積極的に改善していきたい。
	16 キャリア教育の充実	インターンシップの充実、進路ガイダンスの実施	A	インターンシップを2日間、総合的な探究の時間では地域人材にあっていただき、毎週キャリア教育を行っている。更に南予企業合同説明会も行うなど充実している。	キャリアパスポートの利用が徹底されていないので、活動記録をこまめに残す取り組みを行ってきたい。
心の教育	17 教育相談の充実	SLAによる1、2年生全員との面談実施	A	今年度は一人一人に多くの時間を割いて面談を実施した。特にいじめや不登校の生徒のことでは何回も繰り返し面談を行い、生徒の気持ちを汲み取るよう努めた。	SLAによる面談は教員には見せない生徒の本当の気持ちを知るのに重要である。今後も充実した面談ができるよう情報交換を密にしていきたい。
	18 人権・同和教育の充実	教職員の資質の向上と生徒の日常生活に生きる人権・同和教育の推進	A	つくし会では実践報告や大会参加報告等を若手の先生にしてもらった。また、南予地区人権・同和教育研究協議会の公開授業など充実した研修を行うことができた。	研修はただ参加するだけでなく実践を伴うものを充実させ、教員の資質の向上により効果的につながるよう努める。
	19 朝読書の定着	朝読書によって、本を全く読まない生徒をなくす	B	朝読書によって毎日10分の読書時間を確保でき、多くの生徒が静かに読書することができていた。しかし、まだ読書習慣の定着につながっていない生徒もみられる。	朝読書が有意義な時間となるように「一斉に始める」「みんなで毎日読む(教員を含む)」ことを徹底し、読書の習慣化に向けて全校体制で取り組む。
	20 図書館教育の充実	図書館の充実を図り、生徒の読書冊数を年間一人4冊以上 A:4.0冊以上、B:3.9冊～3.5冊、C:3.4冊～3冊、D:2.9冊～2.5冊、E:2.5冊未満	A	新刊図書を購入や図書館だよりを2カ月に一度配布し、図書館の利用促進を図ることができ、年間読書冊数7.6冊と目標を達成することができた。	生徒にとって魅力的な本の設置に取り組み、図書館だよりの定期的な配布を継続し、図書館の利用促進に努め、生徒の読書冊数向上に取り組む。
地域連携	21 教育機関の連携	小学校・中学校・高校との交流学習の実施及び参加回数10回以上 A:10.0回以上、B:9.9～9.0回、C:8.9～8.0回、D:7.9～7.0回、E:7.0回未満	B	小中学校との交流学習は、篠山小中学校との田植え交流など8回実施した。交流の機会が限られているため、様々な生徒が参加することは難しかった。	来年度は交流の機会をより増やすことが求められ、限られた生徒だけでなく多くの生徒に交流の機会を提供したい。
	22 地域資源の活用	イベントやコンテストの参加を通して、特産品のPR活動を実施	A	農業科だけでなく、地域振興研究部をはじめとする普通科の生徒の活躍も多くあった。今後も、農林水産物のPRに努めたい。	イベントやコンテストの内容は多岐にわたっているため、総合的な探究の時間の活動も絡めながら、様々な切り口から挑戦させたい。
	23 地域交流・地域貢献	地域交流参加生徒数延べ500人以上 A:500人以上、B:499～470人、C:469～440人、D:439～400人、E:400人未満	C	新型コロナウイルスの5類移行がGW明けで、地域交流の機会がコロナ前と比較すると少なかったこともあり、交流参加生徒は延べ446人であった。	再開される行事とコロナ後に新しく行われるようになった行事とのバランスをとり、計画的な参加ができるようにしたい。
業務改善	24 環境美化の推進	校内の清掃活動に積極的に取り組む生徒90%以上 A:90%以上、B:89～85%、C:84～80%、D:79～70%、E:70%未満	B	清掃や環境美化へ積極的に取り組んでいる生徒が多くいる一方、10分間の清掃時間いっぱい活動できていない生徒が見られた。評価としてはBとした。	美化委員からの呼びかけや、担当教員からの具体的指示により、清掃活動への意識向上を促し、10分間の清掃時間の徹底を図る。
	25 教育環境の整備の推進	施設設備の整備推進	B	wi-fi接続機器の不具合、エアコンの不具合箇所について事務課とも連絡を取り修繕を行った。	必要な設備や物品を整備できるよう、予算の確保及び速やかな執行に努める。トイレの水が流れないなど水回りの修繕が必要である。
	26 働き方改革の推進	部活動休養日(ノーマルデー)の実施	C	毎週木曜日と土日のどちらか一日を「部活動休養日」として、部活動顧問等がリフレッシュできる日を設け、働き方改革を進めた。	部活と仕事の効率化、校務分掌による仕事の偏りを無くすることができるよう努める。個人の意識改革を促すことで、仕事に対するやりがいや達成感が味わえるようなワークライフバランスを実現する。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。